

# 東 都 大 学 図 書 館

通信 幕張キャンパス 第17号

【編集】 幕張分館司書 菱村宏子

【編集協力】 幕張分館図書館運営委員会

看護学科……………前川一恵・阿部由喜湖

理学療法学科…小久保博樹

臨床工学科……………山下知子

## 看護学科 前川一恵

### おすすめの場所

今年度の4月から、図書館運営委員会のメンバーとなりました看護学科の前川一恵です。皆様が利用しやすい図書館を目指して活動したいと思えます。宜しくお願い致します。

私にとって図書館は、気持ちの落ち着くパワースポットのような場所です。都会の騒音から解放されたような静寂さがあり、偉人たちの知見をまとめた書籍からは知恵をもらえるような気がします。そのため、やる気の出ないときに図書館に来るだけで、じわじわとやる気が出てきます。図書館は、本を読むため、借りるためだけにあるのではありません。学習するため、時にはやる気をもらうためにあるのです。是非とも、講義等の空き時間に図書館に来て、充電してみたいかでしょうか？

### おすすめ図書

#### 『生きることは食べる喜び 口から食べる幸せを守る』

私のおすすめの本は、摂食・嚥下障害看護認定看護師の小山珠美さん著書『生きることは食べる喜び 口から食べる幸せを守る』です。この本は、小山さんの看護実践において、口から食べることができた成功事例が書かれています。お値段も1,650円とお手軽です。

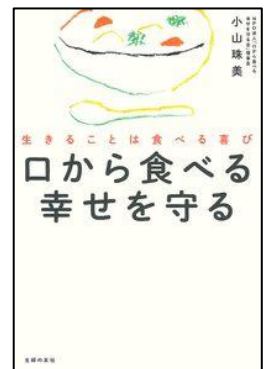
この本には、「食べられるはずの患者さんが置き去りにされている現状があり、そのうち9割の患者さんは、様々な方法を駆使して食べられるようになりました」と書かれています。これは、誤嚥性肺炎を恐れて、厳重なりスク管理医療

が引き起こした結果です。患者さんは食べたいし、家族も食べて喜ぶ顔がみたいために、チャレンジしたい人はいます。小山さんは、そのチャレンジしたい気持ちに応えてきた先駆者です。小山さんの卓越した食事介助の看護技術と、患者さんの生きる力を信じたマインドによって、患者さんは徐々に食べられるようになりました。食べることによって、生きる力を取り戻していく過程が書かれています。

皆様も好きな物を食べたり、自分へのご褒美として美味しい物を食べることによって、癒されていませんか。その食べる楽しみが奪われてしまうことは、生きる気力を失うこととなります。小山さんの行っている口から食べることを支援する（以下、食支援）は、生きる楽しみを支援することだと考えています。

小山さんは、口から幸せを守る会\*を設立し、口から食べる幸せについて啓発しています。さらに、食支援のための評価ツールを開発し、一人でも多くの方が口から食べることを目指しています。小山さんの活動は、医師等の多職種から絶賛されています。皆様是非ともこの本を読んでみて、当たり前前の生活に戻す医療の在り方を見つめる機会になってくれれば幸いです。

『口から食べる幸せを守る  
生きることは食べる喜び』  
小山珠美著  
主婦の友社  
[2017年]



\*口から幸せを守る会

<https://ktsm.jimdofree.com/>

おすすめ図書

『銃・病原菌・鉄』（上）（下）

臨床工学科 堀内孝



『銃・病原菌・鉄』（上）  
 ジャレッド・ダイヤモンド著  
 倉骨彰訳  
 草思社文庫  
 2012年

著者は1937年生まれの進化生物学、生物地理学を専門とする生物学者である。

地球の最終氷河期が終了した後、アフリカで誕生した単一な人類の祖先が全世界に拡散し、約1億3000年の年月を経て、現在の社会を形成するに至った。本著は、「現代社会の不均衡を生み出したのはいったい何が要因だったのか、その要因として銃、病原菌、鉄がどのように関わったのか」という素朴な疑問を科学的視点から解き明かす「理系の人類学書」である。

地球の地理的・気候的要因を著者は「究極の要因」とし、銃・病原菌・鉄を「直接の要因」として展開する。（図：本書（上）図4-1から引用）生存し続けるために食料を獲得し、種を保存することが人類誕生の日から始まったことは容易に想像できる。まずは自生している動植物を確保する狩猟生活が始まり、食料を得るために大陸内、さらには大陸間の移動が起こり人類は全世界へ拡散した。移動のしやすさや自生植物や食料となる動物の採取・捕獲のしやすさはユーラシア大陸のような横に長い大陸への人類の拡散を促したと解説する。人口増加に伴い、より安定した食料確保のため狩猟から農耕へ生活様式が変化したのは必然的であり、このことが人類のターニングポイントと位置付けられている。安定的な食料生産を担保するため、集団が大きくなり、余剰な食料を作れるようになると農耕以外に時間を費やすことができる素地ができ、その中で技術が生まれ、石器から青銅、鉄

を利用した道具が誕生した。その素地は技術者集団の誕生のみならず、集団を統括する階級社会へ発展したのであろう。そこでは情報の伝達や保存のための言語や文字が生まれた。一方、集団が大きくなると集団を維持するための争いが頻繁に起こり、鉄は武器として用いられるようになる。野生の動物を家畜として飼うことも始まると人類の移動速度も速く、大規模になって行ったのであろう。人類が野生動物との生活圏が近くなり、密集することで必然的に病原菌による感染症が起こり歴史の中で繰り返し登場し、人類を苦しめてきた。人類以外の生物との永遠の生存競争である。残念ながらもう一つの予見が銃、即ち争いである。生き残るための技術革新が鉄の利用や銃や兵器の開発に発展したが、兵器として用いられ人が人を殺傷することに用いられることはもしかすると人類の歴史の中では必然なのかもしれない。やがて、鉄や銃は病原菌の進化と同様別の進化を進むのだろう。

「歴史は異なる人々によって異なる経路をたどったが、それは人々のおかれた環境の差異によるものであって、人々の生物学的な差異によるものでない」との著者の言葉で締めくくられている。今日の歴史学では重んじられていない学説だそうだが、私は真摯にこの言葉を受け止めたいと感じた。

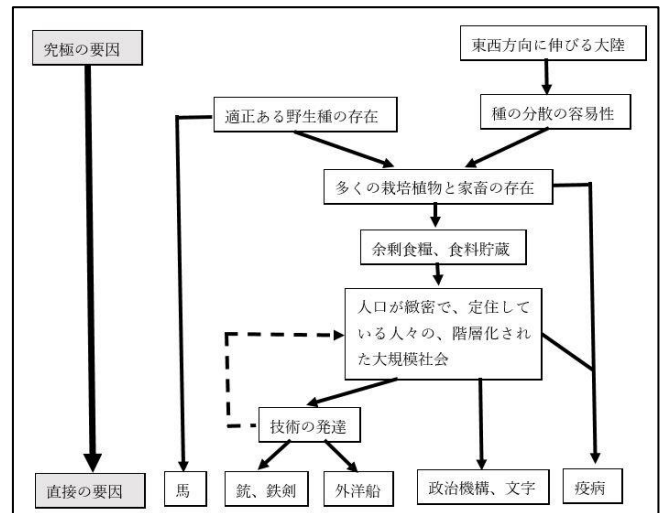


図4-1 広汎なパターンを生じさせた所要因の因果連鎖（『銃・病原菌・鉄』（上） p.153の図4-1による）

司書のおすすめ図書

『100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』

皆さんは、「レファレンス」という言葉を聞いたことがありますか。聞きなれない方も多いかと思いますが、簡単にいうと、“図書館員に質問する”ことを図書館用語では「レファレンス」と言います。

あの本が読みたいけど、タイトルは何だっけ？と思ったことはないでしょうか。この本は、福井県立図書館で、図書館員が実際にレファレンスを受けた内容が本になりました。例えば、本のタイトルにもなった、『100万回死んだねこ』や、『衝撃の巨人』。『おい桐島、お前部活やめるのか』や、『人生が片づくときめきの魔法』などなど。パッと見ただけでは、そのタイトルも正解なのではと思ってしまいそうな、脳内ではそう変換してしまいそうな気がします。

図書館では、「こんなこと聞いて良いかな」とは思わず、「この本、どこにありますか？」、「〇〇に関する本はありますか？」等、遠慮せず図書館員までお問合せください。すぐに回答できない場合もありますが、一緒に考えて、進めていきましょう！！



『100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』  
福井県立図書館編著  
講談社、2021年

マンガで医療現場を学ぼう！

図書館では、臨場感あふれる医療現場を描いた医療マンガを取り揃えました。様々な医療の場面で活躍している職種をピックアップしましたので、ぜひ手に取ってみてください！

お医者さん

看護師さん

医療現場に必要な  
スペシャリスト  
たち



医療マンガ、揃えました！！



- ① 19番目のカルテ 徳重晃の問診  
©富士屋カツヒト/コアミックス
- ② Shrink 精神科医ヨワイ  
©七海仁・月子/集英社
- ③ リエゾン こどものこころ診療所  
©ヨンチャン・竹村優作/講談社
- ④ リウを待ちながら  
©朱戸アオ/講談社
- ⑤ フラジャイル 病理医岸京一郎の所見  
©恵三朗・草水敏/講談社
- ⑥ 境界のエンドフィール  
©近藤たかし・アントンシク/集英社
- ⑦ ラジエーションハウス  
©横幕智裕・モリタイシ/集英社
- ⑧ 胚培養士ミズイロ  
©おかざき真理/小学館
- ⑨ 保健師がきた  
©荃納タオ/双葉社
- ⑩ お別れホスピタル  
©沖田×華/小学館
- ⑪ 漫画家しながらツアーナースをしています。  
現役ナース・先生・ママの“推し”セレクション  
©明/集英社
- ⑫ ナースのチカラ  
私たちにできること 訪問看護物語  
©広田奈都美(秋田書店)2020
- ⑬ 薬屋のひとりごと 猫猫の後宮謎解き手帳  
©日向夏・倉田三ノ路・しのとうこ/小学館
- ⑭ 薬屋のひとりごと  
©2024 Natsu Hyuuga/Imagica Infos Co.,Ltd.  
©Nekokurage/SQUARE ENIX  
©Itsuki Nanao/SQUARE ENIX
- ⑮ JIN-仁-  
(c)Motoka Murakami 2010

他にもあります！  
詳しくはブックリスト  
をご確認ください。

